

貧酸素水塊分布調査の概要について

平成18年7月28日
水産総合研究センター

1 目的

東京内湾の主要漁業である底びき網やあなご筒などの漁船漁業や貝類漁業に大きな影響を及ぼす貧酸素水塊について、分布状況を定期的に調査し、情報発信する。

2 調査方法

東京内湾に17定点を設定し、水質調査を行う。

(1) 調査項目

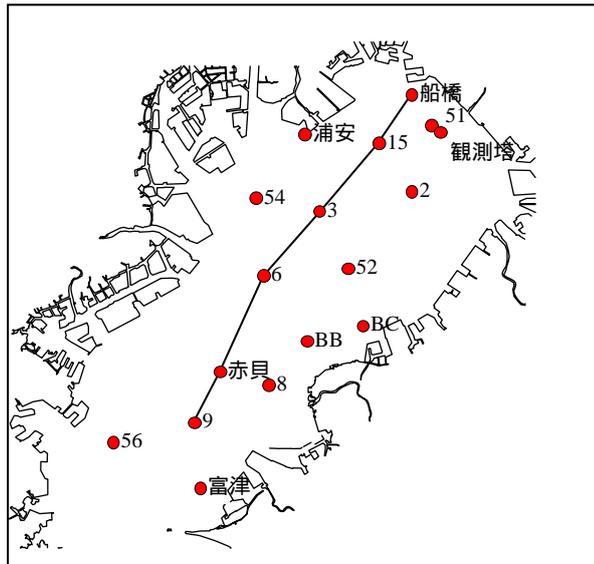
- ・水温
- ・塩分
- ・pH
- ・溶存酸素量(DO)
- ・クロロフィルa量

(2) 調査頻度

2～3回/月

(3) 使用船舶

沿岸調査船わかふさ(12トン)



水産総合研究センターの貧酸素水塊調査点

(- で結んだ調査点は鉛直縦断面)

3 貧酸素水塊の解析、情報提供

貧酸素水塊の解析に当たっては、千葉県水産総合研究センターによる調査のほか、千葉県内湾底びき網研究会連合会、千葉県環境研究センター、東京都環境局、神奈川県水産技術センター、第三管区海上保安本部及び海上保安庁海洋情報部から、適宜、データの提供を受けて情報を整理し、貧酸素水塊速報として発行している。

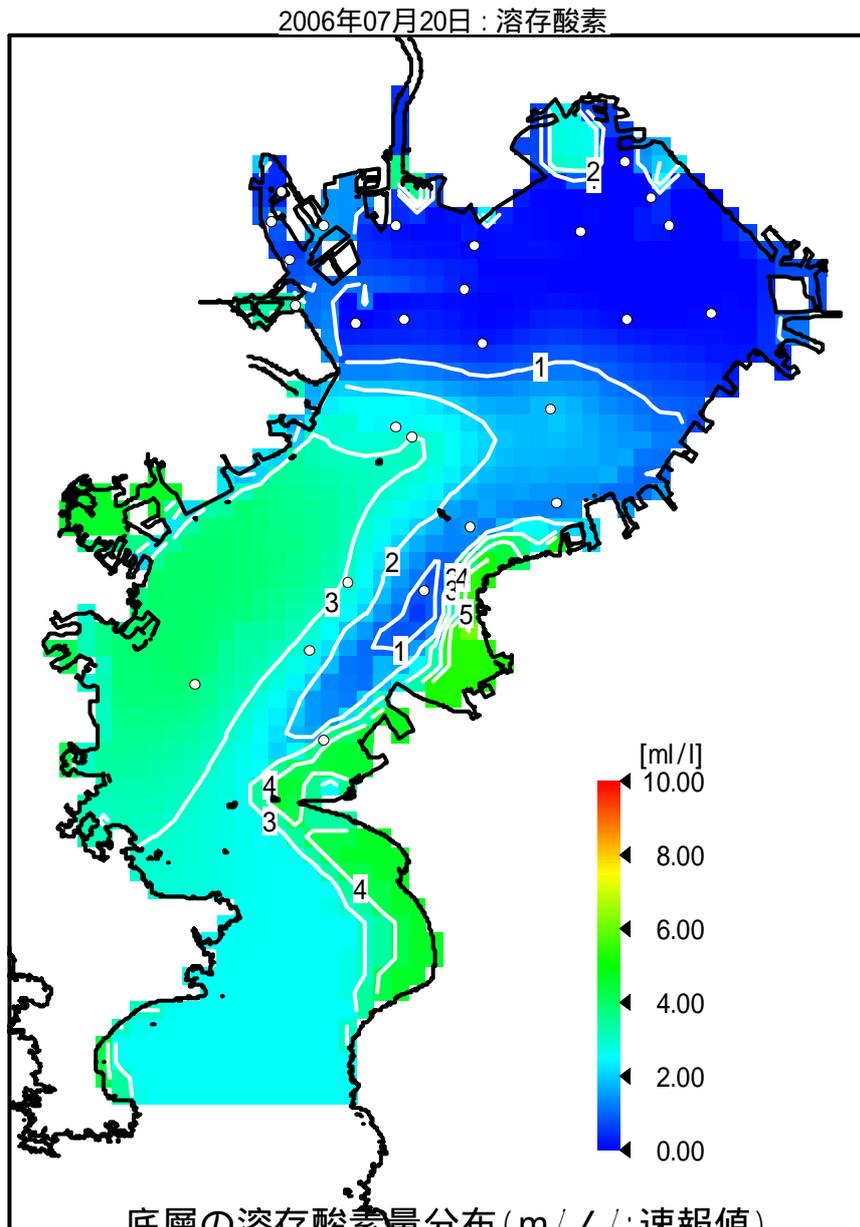
貧酸素水塊速報 (2006年)

千葉県水産総合研究センター(編集)
 神奈川県水産技術センター
 内湾底びき網研究会連合会(千葉県)

協力:海上保安庁海洋情報部
 協力:千葉県環境研究センター
 協力:東京都環境局
 協力:第三管区海上保安本部

底層では、内湾の広い範囲(内湾北部および千葉県寄りの海域)に貧酸素水塊が分布していました。また、内湾のほぼ全域(東京灯標から浦安にかけての沿岸海域は除く)に赤潮が発生していました。プランクトンの優先種は、珪藻のキリンドロテカ(*Cylindrotheca closterium*)でした。

水温は表層が21~23℃, 底層が15~20℃でした。



底層の溶存酸素量分布 (m///: 速報値)
 平成18年7月20日観測分

「東京湾貧酸素水塊予測システム」も運用しています。水産総合研究センターのホームページからご覧ください。携帯電話は<http://www.awa.or.jp/home/cbsuishi/cbmobile.html>からどうぞ

酸素飽和度と溶存酸素量の目安		
酸素飽和度	溶存酸素量	備考
50%	2.5m//	貧酸素水
30~40%	2.0m//	魚類に影響
	1.5m//	貝類危険
	1.0m//	
10%	0.5m//	

